

名称: OECD IC13 : 心不全症例30日以内の死亡率

指標番号:

QIP: 2165

年度: 2008, 2010, 2012, 2014, 2016, 2018, 2020

更新日: 2021-03-05

指標群: OECD HCQ0

名称: OECD IC13 : 心不全症例30日以内の死亡率

意義:

必要データセット: DPC様式1

定義の要約:

分母: 15歳以上の心不全入院症例

分子: 分母のうち、30日以内の死亡症例

指標の定義算出方法:

分母の定義:

1:
データ期間で、心不全入院を抽出する。心不全入院は最も資源を投入した傷病のICD10コードがI50\$, I110、I130、I132とする。

2:
このうち、15歳以上の症例

3:
このうち、調査対象となる一般病棟への入院の有無が「0」の症例を除く

4:
このうち、救急入院を対象とする。救急入院は、入院中の主な診療目的が「4. その他の加療」かつ、予定・救急医療入院が「2**」あるいは「3**」である入院とする。

分子の定義:

1:
分母の解析対象となった入院の入院日から、30日以内の死亡症例。退院後の再入院による死亡も追跡する。

薬剤一覧の出力: false

リスク調整因子の条件:

指標の算出方法(説明): 分子÷分母

指標の算出方法(単位): パーセント

結果提示時の並び順: 昇順

測定上の限界・解釈上の注意:

1:
OECDでの定義を元に行っている。
オリジナルでは30日の再入院については1入院のみを計測することを提案しているが、本指標では入院が複数あればすべて分母に入れることにした。
他の病院への再入院や他の場所での死亡は追跡できない。データ期間について、死亡に関わる様式1がデータ期間外になる場合、分子が少なくなる場合がある(例 データ期間2018年3月までの場合、3月までの退院データのみが対象となるため、3月10日入院、3月20日退院、3月25日再入院、4月5日死亡退院の場合、死亡データが含まれない。)

参考値:

参考資料:

定義見直しのタイミング:

最終更新日: 2021-03-05

